

「月夜」の通釈を基に、五句・六句の表現内容を新たに創作してみよう。  
必要であるならば、五句・六句以外の部分も新たに創作して構わない。

月 夜

今宵、鄜州の空に出ているであろうこの月を

妻は部屋の中から、じっとひとりで眺めていることである。

私ははるかにいとおしむ。幼い子どもたちが

長安にいる父がどんな状態にあるかを思い知ることができないでいるのを。

いつたい、いつになったら人けのない静かなとばりに寄り添い、

妻とふたりで月の光に照らされて涙のあとの乾く日が来るのであろうか。

表現内容を創作してみての感想を書いてみよう。